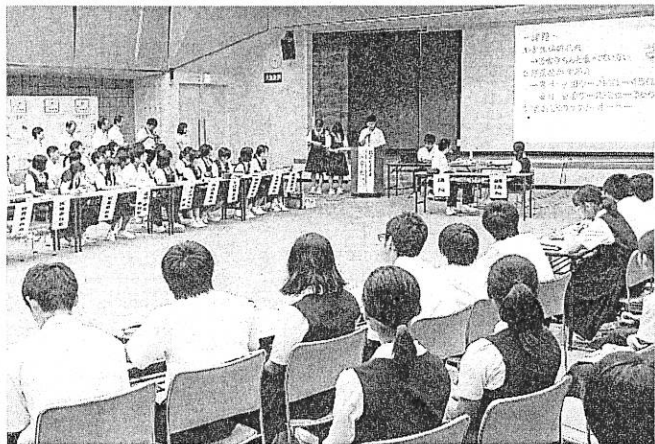


日常的な新聞導入例紹介

NIE全国大会 京の教諭が実践発表



鳴門教育大付属中の公開授業で、新聞記事を使って徳島県の課題を考える生徒たち(徳島市)

徳島市で開催中の「第19回NIE全国大会」(日本新聞協会主催)は1日、小中高校ごとの公開授業や実践発表が行われ、閉幕した。参加者は、新聞を日常的に

学習に取り入れる方法や教科を越えて協力し合う体制について考えた。

鳴門教育大付属中3年の公開授業では、徳島の未来をテーマに模擬県議会が開

かれた。生徒たちは、東日本大震災や県内に糖尿病の患者数が多い記事を基に防災教育の在り方や食生活の改善策をそれぞれ発表し、意見を交換した。

実践発表では、京都学園中・高(京都市右京区)で国語科を担当する伊吹侑希子教諭が、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録に関する記事を使い、和食の定義を教えるなど家庭科と連携した授業を紹介した。伊吹教諭は「冬休みに料理の手伝いをする宿題を出したところ、家族と話が弾む『ファミリーフォーカス』につながった。生徒の共感を得るテーマ選びや教師間の情報共有が重要だ」と強調した。他にも、朝の時間の活用や毎日行う記事の感想文の作成、新聞の投稿欄の利用など各教師の工夫が披露され、参加者は熱心に耳を傾けていた。(藤松奈美)